

## 一 前借り

慎子が鶴鳴に来ると決まったのは、一九九三年の一〇月だった。鶴鳴は毎年四名ずつの特待生を採ることが出来る。この年は佐世保市から二人、中里中学校出身の大野慎子と、愛宕中学校出身の岡葵紀がまず決まった。それより約二ヶ月遅れて長崎市から一人、緑が丘中学校出身の浜本左也香が決まった。大野と岡はこちらから誘うまでもなく、本人が鶴鳴でプレイすることを切望しており、交渉はすんなりいった。しかし浜本は難産だった。浜本は、普通に勉強して公立の高校へ進むことを第一希望として考えていた。浜本が鶴鳴に決まったのは、彼女が母親にポツンと洩らした一言だった。それは、「お母さん私本当は鶴鳴に行つてバスケットしたいのよ」と言ったことばだった。翌日母親が涙声で電話してきた。「あの子は私たちに気兼ねして、公立の高校へ進むと言つて勉強してたんです。本当は鶴鳴でバスケットをしたいと思つていたのに……。こどもの心を何も察してやれなかったのがかわいそうで……。どうかよろしくお願いします」こうして三人の特待生が決まった。

動きのいいガードでは県内ナンバーワンの慎子が獲得でき、他県に比べればひとまわり小さいが、一応県内でもっともしっかりしたセンターの浜本が決まった。さしあたって県内には他にめぼしい選手がいなかったため、特待生の枠はあと一人残っているが、あと一人の枠を埋めるための積極的な動きはしなかった。そんなところへいきなり県外から話が舞い込んできた。茨城から二人と千葉から二人。枠があと一人しかないところへ一気に四人だ。

まず、前代未聞の前借りのことから話そう。私はこの話が舞い込んだ時次のように考えた。「もし県外選手が県内選手より優秀であったとしても、県内選手の勧誘を白紙に戻すことはできない。なぜなら、それまでの低迷時代に、県内の仲間に助けられずとやってきたからである。かといって、県外からのこつした申し出を、『枠が一杯ですから』と断るのはもったいなさすぎ」

どうにかならないかと考えた末、私は来年の枠四名のうちの三名分を前借りして、今年一年限定で使えるようにお願いしてみることにした。私は事の発端や経緯を詳しく書いて伺い文書を作成した。しかし、ただ県外からこうして急に話が舞い込んだからという理由だけでなく、学園側を納得させるためには何か他にもっと強い理由が必要である。私は文書の最後にとつておきの理由をくつつけた。それは、この選手たちが高校三年生になる一九九六年は鶴鳴学園創立百周年に当たる。その百周年に花を添える結果を必ず出すからこの前借りを認めて欲しいという内容である。

とは言つものの、私にはこの選手たちが高校三年生になった時に創立百周年に花を添える結果を出せるといつはつきりした見通しがあつたわけではない。この七人の選手たちについては、中学時代のプレイぶりを一応全員見ている。そして例年に比べると能力が高く、鶴鳴にとってはありがたい選手たちばかりである。だが、全国レベルで見ると各地の名門校にはそれ以上の選手がひしめき合っていた。だから百周年宣言を実現する確証はなかった。

しかし、茨城や千葉から長崎までといえば、東京・名古屋・大阪・福岡と、バスケットボールの名門高校がある大都会を四つも飛び越して来なければならない。短期間の休みでは簡単に帰省できる距離ではないし、試合の応援には家族や中学の監督さんがかけつけてくることなどほとんど不可能な距離だ。そんなに遠いところなのに、わざわざ「鶴鳴のバスケットを勉強させたい」とこだわってくれた監督さ

んや保護者の方々にはどうしても報いたかった。

特待生の枠の前借りなど、学園にとつても前代未聞のことである。簡単には返事ができない。まず高校側の運営部会にかけて審議され、そこでは結論が出ずに学園の理事会にかけられた。私はこの問題はきつと学園の経理担当の理事が難色を示すだろうと推測していた。なぜなら、そこが一番経費の出入りが目に飛び込んでくる部署だからである。

簡単な計算をしてみよう。バスケットボール部の特待生は、おおむね自宅生一に対して寮生三の割合だからそれで計算してみる。特待生は、一般の生徒が支払うべき授業料や入学金を支払わなくてよい。学園事務局としては、特待生も生徒の一人としてカウントするのに、入学金や授業料が入ってこないのだからその金額が気になるだろう。まずそれをはじき出して見る。

新入生	入学金	十万円×四人	〃	四〇万円
	授業料	三万円×四人×十二ヶ月	〃	一四四万円
二年生	授業料	三万円×四人×十二ヶ月	〃	一四四万円
三年生	授業料	三万円×四人×十二ヶ月	〃	一四四万円
合計				四七二万円

以上、四七二万円がバスケットボール部の特待生を人数としてはカウントするのに収入としては入っていない金額である。次に特待生を採ったために学園側から持ち出しをしなければならぬ経費をはじき出してみる。

新入生	寮生の寮費補助金	二万円×三人×十二ヶ月	〃	七二万円
	自宅生奨学金	五千元×一人×十二ヶ月	〃	六万円
二年生	寮生の寮費補助金	二万円×三人×十二ヶ月	〃	七二万円
	自宅生奨学金	五千元×一人×十二ヶ月	〃	六万円
三年生	寮生の寮費補助金	二万円×三人×十二ヶ月	〃	七二万円
	自宅生奨学金	五千元×一人×十二ヶ月	〃	六万円
その他	部の備品消耗品年間予算			二二万円
	強化部としての年間強化費			五〇万円

公式試合出場経費(インターハイ・国体・選抜概算) 約二〇〇万円  
総計約五〇六万円

というわけで、バスケットボール部だけの純粋な持ち出し経費だけで年間約五百万円かかる。鶴鳴には他にバレーボール・バドミントン・新体操と三つの強化部がある。バレーボール部はバスケットボール部と条件はまったく同じ扱いである。バドミントン部と新体操部はエントリーメンバーがバスケットボール部やバレーボール部よりも少ないから、特待生の枠はバスケットボール部やバレーボール部の半分だ。これらがインターハイ・国体・選抜のすべてに出場すれば、学校としては毎年約千五百万円強の部活動強化費が要するということになる。ばかにならない数字だ。

そこで、経理部門からクレームがつかもしいないと予測した私は、密かにある資料を準備した。それは、バスケットボール部の活躍を宣伝費に換算するといくらになるかという資料である。宣伝費としての価値は、メディアにどれだけ取り上げられるかである。私はテレビ局と新聞社の友人に電話して、テレビ放映の場合、十五分番組では制作費がいくら、三〇分番組ではいくら、一時間番組ではいくら、それがローカルと全国放送ではどれくらい違うとか、新聞の活字になった場合、一段一行でいくら、さらに写真掲載の場合、面積でいくら、それが白黒だといくら、カラーだといくらと、細かく分けて値段を聞いた。それに基づいて、バスケットボール部の活躍を年度ごとに金額に換算して出すのである。

その結果、バスケットボール部の宣伝効果としての換算額は、平成五年現在ですでに圧倒的な黒字であり、その後特待生を毎年一杯取採り、しかも私が定年になるまで毎回長崎県大会で負け、宣伝効果が何一つなかったとしても、まだおつりがくるほどの黒字であった。しかもこれは、番組制作費から算出したものであつて、広告代理店が算出する宣伝効果としての費用で算出したらまだはねあがるはずである。しかし、そんな資料は提出する必要がなかった。ある日私は理事長室に呼ばれた。

「もつと早く先生にはよい返事を知らせたかつたし、私の腹はとつくと決まっていたんですがね、一応みんなの意見を聞いた上で調整しなければならなかつたから手間取りました。ごめんなさいね。先生、前借りなどと考えなくていいですから、今年のオーバー分はそのまま来年も四人採ってください。」  
私は理事長のこのことを聞いていて、「もし却下と言うのならこちらには伝家の宝刀を用意してるぞ」と喧嘩腰に構えていた自分が恥ずかしくなつた。

理事長の話を少ししておこう。

鶴鳴学園は短大と高校と幼稚園を持つている。それぞれに学長・校長・園長がいるが、その上に立つてすべてを統括しているのが理事長である。一九三九年生まれ、早稲田大学出身で大学時代はアメリカンフットボール部で活躍したスポーツマンである。理事長は、高校から路線バスに乗って七つ目のバス停で降りた丘の上にある短大の理事長室でいつも執務している。私たちは日常ほとんど顔を会わすことがない。だから、理事長の人となりを知る機会などほとんどないのだが、ある時たまたま私は理事長の手柄に接する機会を得た。

それは一九九一年の春だつた。その年鶴鳴は、松山ゆかり（鶴鳴 共石 ケガ引退）と浜口典子（鶴鳴 共石 アトラントオリンピック）のツイントワーを擁して全国優勝を狙つていた。だから、鶴鳴の歴史始まつて以来初めての海外遠征をした。お隣の韓国である。韓国の強豪チームに胸を借りて強化を図ろうというのがその狙いである。初めての海外遠征だということで、この遠征には団長として校長（前田英昭校長）バスケットボール部の初代監督）が同行したが、あとから理事長も応援に来ることになつた。出発直前に、学園本部事務局から電話で、「一日遅れで理事長が応援に向かわれますのでよろしく」という連絡が入つたのである。

宿舎はどうするのかと尋ねたら、本部の方ですべて手配するから理事長のことは何も気を使わないようにと言われた。私は「応援に行きたいというよりも、それにかこつけて息抜きにゴルフかなにかするんだらう」「ぐらいに思つていた。だって、テレビに出てくるドラマの中の社長とか役人ってみんなそうじゃないか。あの人たちは商談もそこそこにすぐゴルフに出かける（ゴルフそのものが商談かもしれない）。私にとっては偉い人のイメージとはそんな程度のものであつた。」

ところが、現地での理事長はゴルフどころか毎日試合会場に姿を見せ、観覧席の隅っこで目立たないように応援する。しかも試合前の練習から熱心に見ているのである。試合後、「食事でも」と誘つと「いえいえ私は…」と遠慮し、「これ、みなさんで焼き肉でも…」とお金だけ渡して自分はさつさとどこかへ消える。これはあとで気付いたことだが、理事長が私たちとは違う宿舎をとったり食事にも同席しない等、できるだけ私たちの目の前にいる時間を少なくしようとしたのは、理事長という肩書きが私や選手たちに窮屈な思いをさせたらよくないという配慮からだつたのである。

二日目の夜。マネージャーの眞鳥と選手の松尾が風邪気味で少し体調を崩した。会場に応援に来た理事長が、そのことをだれからか聞きつけたのである。試合が終わり、食事をしてホテルに戻つたらフロントに私宛の届け物が来ていた。「韓国でわざわざ私を名指して届け物…？」と思ひながら受け取つた。届けた人は原田延介（のぶよし）。理事長である。中身は風邪薬だつた。簡単なメッセージも入つていた。理事長は風邪気味の二人の選手のためにあちこち薬局を探し回り、風邪薬を買ってきてくれたので

ある。私はこの時、「半分はゴルフ旅行だろ」と疑った自分のさもしい気持ちを本当に恥じた。ともあれ、理事長の特別な配慮で三人も枠をオーバーしてのリクルートが成立した。簡単にその七人を紹介をしよう。まず一番遠い茨城から。

工藤雅子 茨城県 伊奈東中学校 一六〇センチ ガード

雅子のことを話す前に、姉の洋子のことから先に話そう。私たちは毎年三月下旬に千葉県柏市のジャパンエナジー（共石 日鉱共石 ジャパンエナジーと名前が変わった）に遠征する。全国から集まったチームと強化練習試合をするのが目的である。その合宿を近郊の中学生チームがよく見学に来る。その中に、鶴鳴バスケットに注目している監督がいた。それが伊奈東中（茨城）の市村先生であった。その市村先生から一九九一年の暮れ、姉の洋子を探ってくれないかと申し込まれた。以前、九州内の佐賀や大分からは単発で選手を受け入れたことがあったが、日本の西の端の長崎まで、茨城なんてそんな遠いところから選手が来てくれるとは思ってもいないから私も戸惑った。私は洋子のプレイを少し見せてもらった。充分戦力になる選手だ。私は本当に本気かと何度も念を押したが両親も本人も本気だという。それで洋子を探ることに決めた。

その時以来、春の関東遠征の時は必ず茨城まで足を伸ばし、中学生のためにクリニックをするようになった。だから、妹の雅子のプレイは彼女がまだ下級生の頃からよく知っていた。雅子は洋子より小さい。しかしプレイの巧さは雅子の方が上だ。私は、雅子のような選手が来てくれるといいなあと思いつつも積極的な勧誘はできなかった。何しろ遠いから、本人が是非やりたいと思つて来なければ大変だと思つからである。そんな私の気持ちを察して両親も市村先生も雅子を口説いてくれた。しかし雅子は、市村先生の思いにも家族の思いにも反し、バスケットで身を立てる気はまったくなかった。というのは、中学時代に嫌なことがあつて自分の気持ちの中では「バスケットは中学校までで对不起」と決めていたのである。その気持ちが全国中学大会での試合を契機に変わった。

伊奈東中は、関東大会で埼玉の武蔵野台中学校に敗れたものの二位で全国大会に出場した。全国大会は二十四チームを八つのブロックに分けて予選リーグを行う。そして各ブロックの二位までが決勝トーナメントに進み、優勝を争うのである。伊奈東は予選リーグ二位で決勝トーナメントに進んだ。が、ここでは一回戦で負け、結局ベスト十六で終わった。全国大会でベスト十六といえば一応の評価をされる成績である。しかし雅子の気持ちの中で納得いかないものがあつたのだろう。その後しばらく経つてから自分の気持ちを親にうち明けている。

「おとうさん。私鶴鳴に行く」

「え？だつておまえあれだけ俺たちが言ったのにうんと言わなかったじゃない」

「うん…、そうだけど全国中学大会が終わつて考えたの」

「何を？」

「自分のバスケットはまだまだぜんぜん駄目だということがわかつたの。だから山崎先生の下で勉強しなおそうと思つて…」

大滝まゆみ 茨城県 伊奈東中学校 一六九センチ フォワード

雅子が鶴鳴に行くことと決まったことで、大滝が急浮上してきた。特に望んだのは大滝の父親だった。雅子が行くのならうちの娘も推薦してもらえないだろうかと市村先生に頼んだのである。父親の思いは、「うちの娘もバスケットを高校で続けて欲しい。しかし、うちの娘はまだのんびりした性格だから寮の生活がしっかりしていて監督のしつけがきびしいところがいい」だった。そう思っているところへ雅子

の話が持ち上がったから勇気を出して市村先生に打診してみたのである。春休みに見た大滝は、雅子より少し背が高くてポジションはセンターをしていた。その時の彼女のプレイは私の目にはまったく印象に残っていない。なにしろ、一六〇センチそこそこでセンターだから私でなくとも誰も注目はないはずである。しかし何といても関東大会準優勝チームのスタメンである。大きな大会を経験しているというのは教えるだけでは身につかない何かを身につけているはずだ。それに期待した。年が明けて一月。二人は受験に来た。

「お前、大滝?」

「はい、そうです」

「大きくなったろ?」

「はい、八センチくらい」

普通、中学三年生の女子で、夏休みから一月までの半年間に八センチも伸びるなんて常識では考えられない。私はこれは儲かったと思った。あとで話すが、当初あまり計算に入れてなかったこの大滝は鶴鳴にはなくてはならない選手になる。

肘井 茜 千葉県 栄中学校 一七三センチ センター

瀬尾 尚美 千葉県 栄中学校 一六六センチ ガード

春の遠征の時、伊奈町まで足を伸ばして一日だけ中学生のクリニックをした時、千葉県の印旛郡から栄中学校が参加していた。その山本先生から、伊奈東の二人と相前後してこのふたりを採ってくれないだろうかという依頼があった。私はクリニックの時に少し見ただけで詳しく観察したわけではないが、二人とも千葉県のジュニアオールスターチームに入っている選手だというし、特に肘井は身長一七五センチで走り高跳びの選手でもあるというので引き受けた。

あとで聞いてみると、本人たちは鶴鳴の情報はほとんど知らず、山本先生から、「お前たち鶴鳴でやってみないか」と言われて、「じゃ、行ってみますか」という程度の気持ちで長崎までやって来たようである。そんなわけで、瀬尾は自分の描いていたイメージと鶴鳴のイメージが違っていったのだろう、一年目の二学期から故郷の千葉に帰り、翌年地元の高校を受け直した。

新入生が入ってきて指導を始めて間もなく、私は肘井にプレイを教えていて「これは大変だ!」と思った。手直し箇所が多く、どこから手直しを始めていいか見当がつかないのである。しかし、彼女は結局大滝同様、鶴鳴にはなくてはならない選手に成長し、最終的には鶴鳴のポイントゲッターになる。

大野 慎子 佐世保市 中里中学校 一六〇センチ ガード

私は中学時代の慎子を四回見ている。鶴鳴杯争奪中学生招待試合で二回、県内中学生クリニックで一回、そして最後が三年生の時の県中総体である。確かに元気はいい。しかし、その元気もよく見ると自分しか見えていない部分があり、少し危険性をはらんだ元気のよさであった。だが、県内で速い選手といえば慎子しかない。そこで中里中学校に交渉に出向いたのだが話はすんなり決まった。彼女もまた鶴鳴でバスケットをすることを願っていたのである。

ニックネームのことを話しておこう。中里中学校出身で最初に鶴鳴の選手になったのは鴨川友紀(ともき)である。彼女は一九九一年の春に入学した。彼女は一年生の時からエントリーメンバーに入り、浜松インターハイの優勝を経験している。鶴鳴の歴史に残る屈指のガードだ。その次に来たのが鴨川より二年後輩の櫻田綾香である。彼女は一九九五年、磐城で行われた福島国体準優勝の立て役者である。これも歴代屈指のガードである。

鴨川のブレイは小学校の五年生から私は知っていた。鴨川は目がよかった。将来優秀なガードになる要素を充分そなえていた。だから積極的に勧誘活動を続けた。そして、獲得した後は、鶴鳴のカギを握る選手だからという意味を込めてキー「KEY」というニックネームをつけた。その次に来た櫻田は、鴨川の予備のカギという意味でスベアキー（SPARE KEY）からペアと名付けた。慎子が来た時はニックネームを何にするかで困った。中里中学校出身の選手は二人とも鶴鳴のカギを握る選手になっているし、それなら慎子もカギにちなんだニックネームをつけてやらなければならない。しかしマスターキーもスベアキーも使用済みだ。あれこれ考えた挙げ句、スベアの次はリザーブしかないだろうというのでリザーブキー（RESERVE KEY）からリザとつけた。

岡 葵紀 佐世保市 愛宕中学校 一六六センチ フォワード

愛宕中学校のコーチは前田氏である。教師ではない。自分は果物商を営んでいて、商売が終わってから学校に顔を出してコーチをする外部コーチである。彼は愛宕中学校を指導する前は清水中学校のコーチをしていた。清水中学校のコーチを始めたのは、当時私の大の親友でありライバルであった米沢先生の手伝いをするようになったのがきっかけである。自分自身はサッカーの経験者だからバスケットは素人だ。しかし子どもが大好きで、商売の上がりに差し障るのを気にしながらも子どもたちの指導が楽しくて抜けられない。

米沢先生は最初に出した『チームを創る』で紹介したように、私が大学を出て最初に勤めた桜馬場中学校でチーム創りに悪戦苦闘している頃、九州大会二連覇を成し遂げて「中学生の指導ではこの人の右に出る者はいない」と誰もが認めていた名監督である。最初に私が目標にした指導者であり、よき先輩であり、数年後よきライバルになった。私は今でも米沢先生を尊敬しているし、米沢先生もまた当時がむしろ一本槍だった私をよくかわいがってくれ、自分が管理職になって現役監督から身を引いたあと、も何かとアドバイスをしてくれた。そんなわけで、私が鶴鳴に移籍した後も米沢先生の息のかかった中学校からは選手をよくいただいた。

あとを引き継いだ前田氏も当然その意思を引き継ぐ。初代から数えると米沢先生が福石中学校にいた頃に一人、清水中学校に転勤されてからは米沢先生が監督をしていた時代に二人、前田氏が引き継いでから五人、計八人の選手が鶴鳴にきている。前田氏が愛宕中学校のコーチに移籍してからは岡葵紀が第一号だ。私がそう決めつけているわけではないが、米沢塾の優等生は自動的に鶴鳴に行く（行きたい）という雰囲気になつてしまっていた。そういうわけで岡も中学に入学した時から鶴鳴目指してがんばってきた選手である。私にはそういう選手を断る気持ちや査定する気持ちはどこにもない。

浜本左也香 長崎市 緑が丘中学校 一七四センチ センター

彼女は長崎県で唯一のビッグセンター。もちろん長崎県ジュニアオールスター代表の選手である。なんとしても獲得しなければならない。しかし彼女は、夏の県大会が終わると公立高校受験のため学習塾へ通って勉強を始めた。それが急転直下鶴鳴に決まったのは前述のごとく本人が母親に洩らした一言だった。幸運の一言につきる。

## 二 スーパーシード

さて、前借り七人組のリクルートがどうなるのか気を揉んでいる間、本隊はどのような状況になっていたかというと、最上級生の鴨川たちにとって高校生最後の全国大会出場権のキップがかかった試合で

ある全国選抜優勝大会県予選で純心高校に敗れ、二年連続インターハイにも国体にも選抜大会にも出場できないまま代が替わったばかりであった。その経過を少し説明しよう。

鶴鳴は二年前の一九九一年、浜松インターハイで優勝している。しかしその翌年、純心高校に超高校級の選手（永田睦子 一七七センチ 西有家小 西有家中 純心）が入り、鶴鳴はその新入生を攻略できずに県下で無冠のままシーズンを終えた。この時は鶴鳴バスケットの歴史に残る名選手である一瀬由貴子（インターハイ優勝時二年生で唯一のスタメン）が生き残っていたので彼女とパートナーの山口美由紀の二対二を主体にして戦ったが最後の選抜予選を二ゴール差で落とし、無冠のまま終わった。（詳しい経過については前編の『続・チームを創る』で述べている）

二年目は昨年より不利である。頼りになるのは鴨川一人。鴨川は前に紹介したように鶴鳴の歴史に残る屈指のガードだが、昨年の一瀬・山口みたいにコンビを組むパートナーはいないから、鴨川の二対一だけが頼りの勝負である。他の四人はそれにつまぐ合わせてプレイするように組み立ててみた。しかし、軸になる選手が一人減った分だけ昨年よりも苦しい。結果は永田攻略どころか長崎商業にも負け、前述のように二年連続無冠で終わった。

この時点で鴨川たち三年生は、卒業式前日まで後輩の手伝いはするが現役選手としては引退だ。次年度は工藤洋子をキャプテンとする二年生四人と一年生五人をうまく組み合わせるチームを創らなければならない。その九人の内訳は次の通りである。

二年生	工藤 洋子	茨城県	伊奈東中学校	一六七センチ	フォワード
	寺平 博美	長崎市	長崎中学校	一七三センチ	センター
	二井麻由子	西彼杵郡	長与中学校	一六二センチ	フォワード
	宇佐美昭代	愛知県	千種台中学校	一七五センチ	センター
一年生	櫻田 綾香	佐世保市	中里中学校	一六四センチ	ガード
	野添真優美	長崎市	横尾中学校	一六六センチ	フォワード
	武藤 陽子	茨城県	伊奈東中学校	一五六センチ	ガード
	野原亜紀子	福江市	福江中学校	一七五センチ	センター
	本田伊久代	佐世保市	日宇中学校	一七〇センチ	フォワード

このメンバーに前述の前借り七人組を加えたチームで翌年の高校総体と選抜予選の二大会を戦わなければならない。純心ではさらにたくましさを増した怪物永田が健在で最終学年を迎える。永田を怪物と呼ぶ人が多いが、それはモンスターという意味ではなく、賢さ・人格・体力ともに一般常識を超える偉大さを持っているという意味で怪物と呼んでいるのである。それくらい永田はすごい。

工藤洋子の代になってからの最初の試合は長崎地区新人戦である。この大会は純心高校が国体に出場している期間に行われたので、純心はスーパードで決勝戦にのみ出場する組み合わせになり、トーナメントの決勝戦（勝ったチームが純心と決勝戦をやるから事実上は片側のない準決勝）は鶴鳴対長崎商業になった。その勝者が国体から帰ってきた純心と対戦するのである。

私は、試合の案内や報告を毎回パソコンで処理する。そしてそれを、試合がある度に印刷して学校の職員、卒業生、保護者、本校関係の中学校や実業団や大学の監督、それに選手たちとそれぞれに配る。年によってその部数は違いますがおおむね二〇通から一六〇通になる。一九九三年十月二四日の長崎商業戦の報告文書とデータをそのまま紹介しよう。まず報告文書から。

平成五年十一月一日付 長崎地区新人戦試合結果報告

【試合結果】準決勝戦 長崎商業六六（前三六・後三〇）ー（前三六・後二七）六三鶴鳴

#氏 名 学年 身長 出身中学校 出場時間 得点 反則 備考

工藤 洋子	二年	一六七	茨城伊奈東	四〇分	四〇	三	スタメン
寺平 博美	二年	一七四	長崎市長崎	二〇分	〇	二	
二井麻由子	二年	一六二	西彼杵長与	八分	〇	一	
櫻田 綾香	一年	一六四	佐世保中里	三四分	七	三	スタメン
野添真優美	一年	一六六	長崎市横尾	四〇分	七	〇	スタメン
武藤 陽子	一年	一五五	茨城伊奈東	三八分	六	三	スタメン
野原亜紀子	一年	一七四	五島福江	二〇分	三	二	スタメン

#### 【試合感想】

十五人のエントリの中で、重要な試合で使えるのが右記の選手に限られてきます。

三〇日に純心と戦うつもりでしたがその前に長崎商業にやられてしまいました。

勇み足…と言ったら長崎商業に叱られるでしょうが、私の感想としては「やられた」というより「転んだ」という試合でした。三〇年も監督をやっていると、リードしていても「いやな試合展開だなあ」とか、逆に追いつ追われつの試合展開でも「この試合はもらったよ」というようなことがわかるものです。この試合は後者の方でした。

前半に一回と後半に一回「よし、これで勝負は決まった」と思われる場面がありました。そこで決めきれずに最後に息切れしてしまいました。ちょっととした出来事だけどそれが試合の流れに重要な意味を持つてるとか、びっくりするような三点シュートを決められたけどそれは偶発的な出来事に近いもので試合を決定づけるものではないとか、そんなことがまだ選手たちにはわからないのです。

でも、そんなことが最初からわかる選手はいません。それを教えていくのが私の仕事です。しかし、それはコートでバスケットを教えればわかるようになるものでもありません。生活全般の中のすべての面で「ちょっとおとなに近づいたかな」と感じる人間に育て上げなければなりません。それには時間がかかります。

話はかわりますが、平成八年は鶴鳴高校創立百周年に当たる年です。それは現在の中学三年生が高校三年生になる年です。私はこの記念すべき年に花を添えることをしたいと思っていました。そこへ、偶然にも県内のみならず県外の思わぬチームの選手からも鶴鳴でやりたいという申し込みが舞い込んできました。もちろんそのコーチや選手たちは百周年のことを知って申し込んだものではありません。

でも、それを全員受け入れれば招待生の枠を大幅に越えます。私は困りました。しかし、学校の特別配慮でそれが受け入れられることになりました。選手たちもそのことは知っています。選手たちはまた、全国制覇は単年度ではできないことも知っています。そのための基礎工事がこの大会から始まったことも承知しています。みんなでもう一度挑戦してみたいと思っています。

次は試合データを紹介しよう。試合データは表計算ソフトのロータスを使用する。他のデータ、例えば体重の変化やシュート率などの記録もこの表計算ソフトで処理するが、試合以外のデータは桐というデータベースソフトで処理することが多い。(後にMS-DOSからWINDOWSに変えてからは使用ソフトも変わった)データは、試合の大半を主力選手で対応しなければならぬような試合の分のみパソコンに入力することになっている。正確を期すためにはビデオでチェックするのがいいが、時間がないのでリアルタイムでマネージャーが記録したスコアブックからパソコンに入力する。

長崎商業戦は、後半残り二分に工藤洋子がドリブルスタイルに失敗し、その後パスを二つながれてスリーポイントを決められた時に「負けた」と思った。三点差をつけられてしまったからではなく、勝ちを急ぎすぎて工藤が無理な仕掛けをしてしまったからそう思ったのである。

試合は六〇対六〇の同点。相手の攻撃。だが相手も決してリズムカルに攻めているわけではない。私



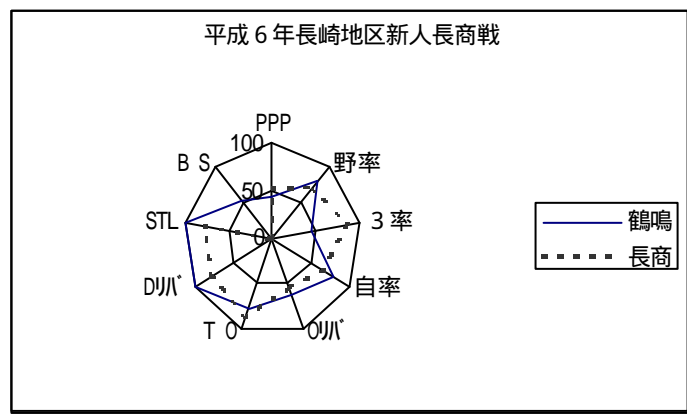
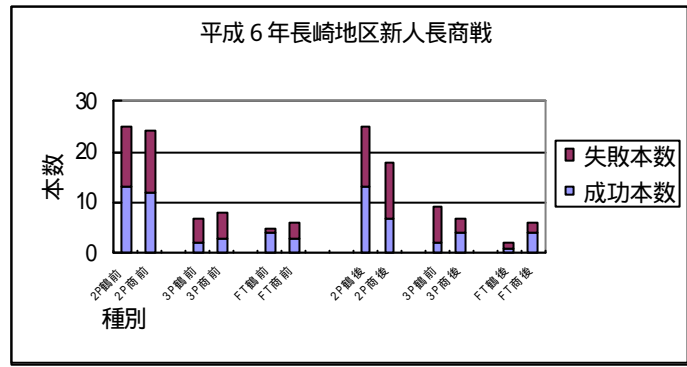
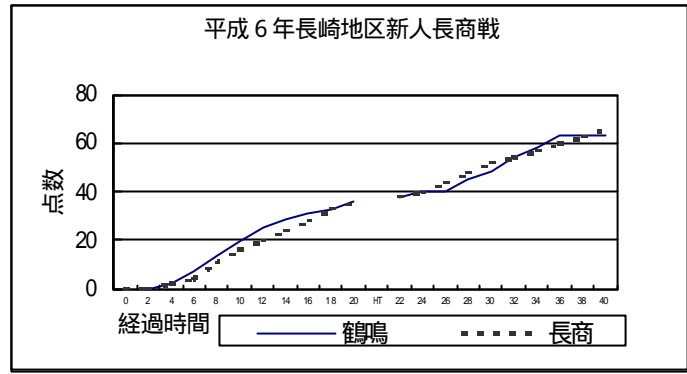
H5.10.24 長崎地区新人戦 鶴鳴 63 ( 36 + 27 : 36 + 30 ) 66長商 by lotus123

鶴鳴氏名	学年	身長	得点	反則	時間	野数	野成	野率	3数	3成	3率	自数	自示	自成	自率	OJ	DJ	STL	T	OJ	B	S
鶴鳴	2年	167	20	0	20	14	7	50%	6	2	33%	0	0	0	*	0	6	1	2	1	0	0
5 寺平	2年	174	0	1	5	2	0	0%	0	0	0%	0	0	0	*	2	1	0	0	2	2	0
6 二井	2年	162	0	1	5	0	0	*	0	0	*	0	0	0	*	0	1	0	0	0	0	0
櫻田	1年	164	5	3	15	3	2	67%	0	0	*	0	1	1	100%	1	2	0	1	2	0	0
野添	1年	166	4	0	20	2	1	50%	0	0	*	2	0	2	100%	0	0	0	1	0	0	0
武藤	1年	155	4	2	20	3	2	67%	1	0	0%	0	0	0	*	0	0	0	0	2	0	0
野原	1年	174	3	1	15	1	1	100%	0	0	*	2	0	1	50%	1	4	0	0	0	0	0
前半合計			36	8	100	25	13	52%	7	2	29%	4	1	4	80%	5	15	1	4	7	2	0
他のデータ前半			POSS	43	PPP	0.84	TRD	1	TRD	1	FTR	0	29%	79%	9%	16%	6%					
5 寺平	2年	174	0	1	15	0	0	*	1	0	0%	0	0	0	*	1	1	0	1	1	1	1
6 二井	2年	162	0	0	3	0	0	*	1	0	0%	0	0	0	*	0	0	0	0	1	1	0
櫻田	1年	164	2	0	19	4	1	25%	1	0	0%	0	0	0	*	0	3	0	1	2	0	0
野添	1年	166	3	0	20	3	1	33%	1	0	0%	2	0	1	50%	2	2	0	4	0	0	0
武藤	1年	155	2	1	18	1	1	100%	1	0	0%	0	0	0	*	0	0	1	1	1	0	0
野原	1年	174	0	1	5	0	0	*	0	0	*	0	0	0	*	0	0	0	0	0	0	0
後半合計			27	6	100	25	13	52%	9	2	22%	2	0	1	50%	7	9	1	9	7	1	0
他のデータ後半			POSS	47	PPP	0.57	TRD	1	TRD	1	FTR	1	35%	60%	22%	15%	4%					
鶴鳴高校合計			63	14	200	50	26	52%	16	4	25%	6	1	5	71%	14	31	2	13	14	3	
他のデータ合計			POSS	90	PPP	0.70	TRD	2	TRD	7	FTR	1	38%	91%	15%	16%	5%					
長商氏名	学年	身長	得点	反則	時間	野数	野成	野率	3数	3成	3率	自数	自示	自成	自率	OJ	DJ	STL	T	OJ	B	S
松永	2年	170	8	3	16	5	4	80%	0	0	*	0	0	0	*	1	1	0	0	0	0	0
柴田	2年	170	11	2	18	9	5	56%	0	0	*	2	0	1	50%	2	2	1	0	3	0	0
大野	2年	170	13	2	20	3	2	67%	4	3	75%	0	0	0	*	1	2	0	0	1	0	0
森	1年	157	0	1	7	4	0	0%	2	0	0%	2	0	0	0%	0	3	1	1	1	0	0
岩崎	1年	161	2	0	20	3	1	33%	2	0	0%	0	0	0	*	0	2	0	0	1	0	0
15 諸石	1年	165	2	0	6	0	0	*	0	0	*	2	0	2	100%	0	1	0	0	1	0	0
16 原	1年	160	0	0	13	0	0	*	0	0	*	0	0	0	*	0	0	0	0	0	0	0
前半合計			36	100	100	24	12	50%	8	3	38%	6	0	3	50%	4	14	2	2	6	0	0
他のデータ前半			POSS	45	PPP	0.80	TRD	0	TRD	3	FTR	2	21%	82%	5%	13%	0%					
松永	2年	170	6	0	20	6	2	33%	0	0	*	2	0	2	100%	0	1	0	0	0	0	0
柴田	2年	170	4	2	14	2	1	50%	0	0	*	4	0	2	50%	1	4	0	2	1	0	0
大野	2年	170	2	1	15	1	1	100%	2	0	0%	0	0	0	*	0	0	1	1	1	0	0
森	1年	157	6	3	16	0	0	*	2	2	100%	0	0	0	*	1	0	0	0	1	0	0
岩崎	1年	161	6	0	20	2	0	0%	3	2	67%	0	0	0	*	0	1	0	2	0	0	0
15 諸石	1年	165	6	0	15	7	3	43%	0	0	*	0	0	0	*	3	2	0	0	1	0	0
16 原	1年	160	0	0	0	0	0	*	0	0	*	0	0	0	*	0	0	0	0	0	0	0
後半合計			30	6	100	18	7	39%	7	4	57%	6	0	4	67%	7	11	1	5	4	0	0
他のデータ後半			POSS	41	PPP	0.73	TRD	2	TRD	3	FTR	1	47%	55%	11%	10%	0%					
長崎商業合計			66	106	166	42	19	45%	15	7	47%	12	0	7	58%	11	25	3	7	10	0	0
他のデータ合計			POSS	86	PPP	0.77	TRD	2	TRD	6	FTR	3	32%	68%	8%	12%	0%					

\*POSS=攻撃回数 \*TRD=チ-ムバ カド OFF \*STL=スティル(相手のバシはSTLに入れない)  
 \*PPP=対POSS得点 \*TRD=チ-ムバ カド DEF \*T O=タンオーバー(味方のバシはバシ バルとバド ボール)  
 \*B S=ブ ロックショット \*FTR=チ-ムバ カド \*チ-ムバのカド カは1投目を落としても0/1とせず0/2とする  
 \*自ボ=ボ-スア-ド (スリ-ショットの3投目も含む)

レーダーグラフ用の指数算出表		野率=65%で100, 3率=55%で100, 自率=90%で100															
#	PPP	野率	3率	自率	OJ	T O	DJ	STL	B S	OJ	DJ	STL	B S	OJ	DJ	STL	B S
鶴鳴合計	44	80	45	79	63	78	100	100	53	OJ=60%で100, DJ=85%で100, BS=対SHOTが10%で100							
長商合計	52	70	85	65	54	87	79	78	0	STL=対POSSが10%で100, TO=対POSSが6%で100 50%で0							

後半の相手のスリーポイント攻勢に少し驚きましたか？あれはナイスシュートセレクションでしたか？  
 ボールを奪って勝利を呼びたかった。でもあれは取れそうでしたか？無理でしたか？  
 勝ちたいからボールを奪いに行く。勝ちたいからシュートを打つ。でもそれがそうするべきタイミングではない時にそうするとそのために罠穴を掘ることになる場合が多いのです。コートに立つ選手はそれがわ



はその後の筋書きを次のように組み立てていた。「そのままの状態では相手が攻めめぐみ、無理なシュートを放ってそれを落とす、鶴鳴がリバウンドボールを取って速攻を出す」

しかし工藤には攻めめぐんでいる相手が「つぶせる！」と見えたのだらう。「つぶせる！」勝ち！」なのだから工藤はつぶしにいったのだらうが、本当に勝負がわかっていている選手にとっては「こちらが無理をしなければ相手は自滅する！」に見えなければならぬ。コート上の選手にそれが見えなければ際どい勝負には勝てないのである。

しかし、工藤のために弁護しておく、そのような感覚は長い間の訓練で培われるものであるということ、新キャプテンになって初めての試合での責任感が焦りを誘発させた結果そうってしまったのだということは私も充分承知している。

### 三 感染症

さてそれから一ヶ月後、今度は全県下の新人戦が行われた。その結果報告を読んでいたところ。ただし、これ以後はボックススコアは省略し、報告文書の文面とボックススコアのコメントだけを紹介する。平成五年十一月二十四日付 県下新人戦試合結果報告

#	氏名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
工藤	洋子	二年	一六七	茨城伊奈東	三三分	二七	四	スタメン
寺平	博美	二年	一七四	長崎市長崎	三一分	八	三	スタメン
二井	麻由子	二年	一六二	西彼杵長与	七分	五	一	
村田	初美	二年	一六〇	長崎市横尾	七分	二	〇	
櫻田	綾香	一年	一六四	佐世保中里	三三分	八	二	スタメン
野添	真優美	一年	一六六	長崎市横尾	三三分	五	一	スタメン
武藤	陽子	一年	一五五	茨城伊奈東	三三分	八	三	スタメン
野原	亜紀子	一年	一七四	五島福江	九分	〇	〇	
本田	伊久代	一年	一七〇	佐世保日宇	七分	〇	〇	
館林	凡子	一年	一五七	長崎市滑石	七分	〇	二	

#### 【試合感想】

長崎商業は地区新人戦以後一人一人がしっかりとプレイをするようになっていました。純心も永田以外の新人が持ち場をしっかりと受け持っていました。一方鶴鳴は、データのコメントに示すとおり感染症にやられました。このような状態で、永田対策がどうのこうのと口に出すのは純心に対しては長崎商業に對しても失礼だと思いました。

試合が終わってまる二日。舌を噛み切って死んでしまいたいような気持ちがなく襲ってきます。負けたことよりも、観戦している人が「見ているのが気の毒だから帰ろうか」と言いたくなるような試合をしてしまったことが我慢ならないのです。思い出せば怒りがこみ上げてきます。屈辱感が私の身体をなめまわします。

しかし、怒りや屈辱感の具体的な対象は特定できません。例えば怒りの対象が自チームの選手たちであるとか、屈辱感の対象が相手のチームだとか相手のコーチだとか、そんなものではないのです。かといって自分自身のふがいなさに腹が立つわけでもありません。確かに選手のもたつきはありました。しかしそんなことは過去にいくらでもありましたし、もっとひどい状態を切り抜けたり、もっとひどい選

手をやりくりして立派に戦ったこともあります。それなのに、今回はどうにも出来なかった。それがやりきれません。

さて、病原体を捜さなければなりません。それはすぐ見つかるのか、仮にすぐ見つかったとしてそれは簡単に退治できるものなのか、それとも長くかかるものなのか、それはわかりません。しかし早急に見つけ出さなければならぬのです。自分自身がこうしてのうのうと生きていることすら今は腹立たしくてたまりません。しかし、いくら腹立たしくても今私がやることは自分の目を顕微鏡にしてコートに立つこと以外ありません。

#### 【選手へのメッセージ】

後半に三回、得点グラフが横這いの時間帯がある。これでは勝てない。しかし、後半が悪かったのではなく、その兆候はすでに前半の終わり頃（十四―十八分）に現れている。そしてそれは、日常の練習でも常に指摘されていることである。

問題なのは悪いプレイを重ねたのではなく、よいプレイを仕掛けたのにそれを途中でやめてしまうのが多かったことであり、さらにそれが選手間に伝染していったことである。これまで、その主な原因は選手一人一人の精神面の問題だと考えてきたが、ここに至ってはあらゆる角度から分析して真の原因を究明しなければならない。

このように「永田攻略、永田攻略」と叫びながら、純心どころか長崎商業にも食われ、どんどん後退していつてるさ中に特待生枠の前借り募集は進行していたのである。学校や他の強化部の監督たちに対しては心苦しいし、「百周年に花を添えると啖呵を切ったけど、ほんとにそれが実現できるだろうか」と思ったり、「こんなことをしていると七人の選手から『もう鶴鳴に行くのやめます』と言われぬだろうか」と思ったりして不安でもあった。しかし、募集活動は何事もなくすんなりといった。それは多分二年前に全国優勝した実績があったからだと思う。実績というのは恐ろしいものだ。

さて、前述のコメントは当時の文章をそのまま原文通り書いたものであるが、あとになって考えてみると私は少し無理をしていたようである。人には天分というものがあるが、私はそれを充分把握しないて要求していたようなのである。その天分も、身体的な天分と精神的な天分に分けられる。このチームは特に後者の天分に恵まれていない選手が多かったように思う。

身体的な天分に恵まれない選手を育てるのはさほど苦勞しない。バスケットボールという競技はチームスポーツだから、ダッシュ力がなくても速いプレイを身につけさせる方法は捜せば見つかる。そのよい例が工藤雅子だ。このことについては詳しく後述する。しかし、バスケットボールがチームスポーツであるが故に逆に精神面の天分は磨こうとしても光らない場合が多い。団体競技は個人競技と違って人と人との関係が微妙に影響しあうからである。当時の私は「精神面の弱さ」についてはただただつき回すだけで具体的な改善策を考えてはいなかったし、それは改善できないものだと思いついていた。

ところが、私の定説を覆した選手がいる。野添真優美である。彼女は難しい局面になるとパニックに陥って状況判断ができなくなるタイプの選手であった。私はこのような選手は大成しないと思いついていた。しかし野添は変貌した。その経緯は後で述べるが、彼女は私のコーチ人生に大きな自信をもたらしてくれた。

#### 四 ストレス耐性

さて、県下新人戦の次は年が明けて一月に行われる九州高校春季選手権大会の長崎県一次予選である。これは県下新人戦でベストエイトに勝ち残ったチームだけで争われる。鶴鳴は前回の地区新人戦で長崎

商業に負けたので第三シードになり準決勝で純心と大戦しなければならぬ。

平成六年一月十八日付 九州高校春季大会長崎県二次予選結果報告

【試合結果】準決勝戦 純心六二（前二八・後三四）ー（前十六・後十八）三四鶴鳴

#氏	名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
	工藤	洋子	二年	一六七	茨城伊奈東	三六分	六	四 スタメン
	寺平	博美	二年	一七四	長崎市長崎	三四分	〇	三 スタメン
	二井	麻由子	二年	一六二	西彼杵長与	四分	〇	〇
	宇佐	美昭代	二年	一七五	愛知千種台	三分	二	一
	櫻田	綾香	一年	一六四	佐世保中里	三二分	十一	二 スタメン
	野添	真優美	一年	一六六	長崎市横尾	二二分	五	〇
	武藤	陽子	一年	一五五	茨城伊奈東	四〇分	六	三 スタメン
	野原	亜紀子	一年	一七四	五島福江	七分	〇	〇
	館林	凡子	一年	一五七	長崎市滑石	二二分	四	二 スタメン

#### 【試合感想】

データを見ておわかりのようにオフェンスがまっただけです。具体的には、プレイがダブツて行き詰まる場面が多い。やれるチャンスを中心に譲る場面が多い。

ファイダー（パスを送る人）とレシーバー（パスを受ける人）の息が合わない場面が多い。などです。原因を分析してみます。

理解力が足りないのが原因のひとつではありません。今年のチームはプレイを理解するまでに時間がかかります。しかし、それはたいした問題ではありません。問題なのはできるようになったと思っただけのプレイがいつのまにかできなくなっている場合が多いことです。その原因を私は、選手の特性不安とストレス耐性にあると見ました。特性不安とは、具体的な何かに不安を感じるのではなく、不安になりやすい性格のことを言います。

今年のチームには、現三年生の鴨川や昨年卒業の一瀬のような頼りになる選手がいません。が、チームにそのような核がないから不安感が漂っているわけではありません。それは個人個人の特性不安とストレス耐性の問題です。そしてそれは、練習が足りなかったからでも練習をやりすぎたからでもありません。生い立ちとの関わりが深い問題です。

試合が終わった後ずっとこのことを考えていた私は、このチームにはモーションオフェンスは向かないと判断しました。だから、平成六年度は徹底したパターンオフェンスのチームに切り替えようと思います。選択肢を選手に任せるよりも、機械的に動きを決めてやるプレイの方が迷いを少なくすると思います。武器は工藤のスリーポイントシュートです。第二エースを誰にするかは新生を含めてあらためて考えます。今後、二月いっぱいには三年生を相手にスクリメージ（試合形式練習）をたくさん消化します。その後、三月中旬までは個人技能の復習期間とし、三月下旬から新生を加えた関東遠征で強化を図ります。

モーションオフェンスをやめてパターンオフェンスに切り替えたということについて説明しよう。私がモーションオフェンスに興味を持ち始めたのは一九八四年頃である。しかし、興味は持ち始めたものの、結局大事な試合は元のパターンオフェンスに戻ってしまうという状態が三年ほど続いた。その後改良を重ね、『続・チームを創る』の第一章「ポビーナイト」で述べているように一九八七年にはほぼ現在の私の考え方に近いものが出来上がっており、毎年少しずつ改良を重ねながらモーションオフェンス

の比重を増やしていった。そして一九九三年にはもう大事な試合でもモーションオフENSEで戦い通せるまでになった。それなのに、前述のように一九九四年度の試合結果報告では元のパターオフENSEに戻すと私は言っている。

しかし、それはすぐまた元に戻った。新入生を加えての関東遠征以後、センターの寺平をハイポストに上げ、センターと周囲の選手のプレイの優先順位をはっきり決めて、モーションを組み立てるアイデアが次々と湧いてきたのである。それは、センターの寺平のジャンプショットの距離が遠くなり、安定してきたことにヒントを得たものだった。私は永田対策のモーションオフENSEの考え方を次のようにまとめた。

- ・寺平の遠いシュートが入るならばそれをマークするために永田は外に出てこなければならぬ。
- ・それならば永田のディフェンスリバウンドが少なくなる。
- ・しかし、寺平の能力では彼女に最初からシュートさせるための動きを作るには無理がある。
- ・寺平にはまず周囲の選手にスクリーンをかけさせよう。
- ・そうすると周囲の選手がゴール下やアウトサイドでノーマークになりやすい。
- ・それで永田がヘルプやスイッチに行くときさかすか寺平がボールを受けてシュートを打つ。
- ・寺平は決してインサイドにドライブしたり、ポストでシールしたりしない。
- ・それはすべて周囲の選手たちの仕事とする。
- ・だから、オフENSEリバウンドはガードも含めて周囲の選手が果敢に飛び込む。

注「小さい選手ばかりなのにオフENSEリバウンドに果敢に飛び込むプレイは新モーションオフENSEの副産物として後々すばらしい効力を発揮することになる。

ここで、私の新モーションオフENSEの基本的な考え方と、それが発展していく過程におけるバスケットボールそのものに対する考え方を紹介しておこう。なおこれは、当初純心の永田攻略対策として考案したものであったが、練習を重ねるうちにこの考え方は今年限りの永田対策だけでなく、リクルートで常に不利な状況に置かれている鶴鳴のバスケットに常に採用できるものではないかと考えるようになった。その試作から完成までに関わって見事に三年後の風軍団を創りあげたのが、文中に再三登場する前借り七人組だったのである。

## 五 鶴鳴モーション

バスケットボール競技のとらえ方

バスケットボールは暗記型ではなく対応型のスポーツである。

オフENSEが未熟では何も先に進まない。

うまくやることよりも、うまくいかない時の切り抜け方を知ることの方が大切である。

技術そのものは未熟でも、使える場面と使えない場面を知っていれば大丈夫だ。

オフENSEのダミーディフェンスをするだけでディフェンス能力は向上する。

練習も試合も競技規則に従うことが大切である。

### 練習

指導者がはつきりと完成図を頭に描き、プレイを成功させるためのルールを作り、そのために必要なドリルを整理する。この三つが揃って初めて練習が成立する。

オフENSEを成功させるためのルール

オーブナー

- ・プレイを組み立てるためにボールを進めてフロントコートに入る時、無造作に入ってはならない。
  - ・必ずボールをスウィングする（パスを使ってディフェンスを揺り動かす）か、
  - ・人がクロスする（人が並行に走らないで交差しながら走る）か、
  - ・ボールをスライド（まっすぐ縦にドリブルして進むのではなく、少し横にずれながら）させる。
  - ・理由はディフェンスに的を絞らせないためである。
- システム

マンツーマンオフフェンスもゾーンオフフェンスもモーションオフフェンスである。モーションオフフェンスとは、一言で言えばパッシングとムービングを主体とした攻撃方法である。動きは原則的な約束事だけを決めておいて、仕掛けた選手の動きに対応して次の選手が動きを選択していくという方法が主体となる。

#### a マンツーマン

- ・構成は4アウト1インまたは3アウト2イン
- ・センターはゴール近辺をオープンスペースにするためにローポストの位置は占めない。

・動きはギブアンドゴー、スクリーンアウェイ、ゴアラウンド、シールの四種類

#### b ゾーン

- ・構成は4アウト1インまたは3アウト2イン。
- ・どの種類のゾーンも同じ動きで攻める。

・動きの種類はアウトサイドからのシャローカットとセンターの飛び込みでトライアングルを作るプレイが主体となる。インサイドは得点を取るといっても崩しのために利用する。

#### c 共通

- ・強烈なドライブインを常に狙っていないければ、どんなにパッシングとムービングがよくても結局は行き詰まる。

・ショットコーナーを有効に使わなければならない。

注①ショットコーナーがなぜ有効かについて、私は次のように考える。

ア ディフェンスは背後から攻められるのが最もイヤだ。

イ 捕まえ損なうとゴールに直結する位置である。

ウ そこから出るパスは、受ける人がゴールに正対して受けられる。

・パワープレーはセンターよりもガードやフォワードが巧くなければならぬ。

#### 動きの原則

##### ムービングの原則

- ・片側に人が偏ったら、真ん中の選手 ボールに近い選手 ボールから遠い選手の順に動け
  - ・動きは、カッティング スクリーニング リプレイングの順に狙え
  - ・ふたつの仕事を同時に用意しておく
  - ・動きが重なったら、後から仕掛けた選手ではなく、重なった選手の動きが見えている選手が譲れ
- パッシングの原則

- ・人数の少ない方へパスせよ
- ・外と中の組み合わせをバランスよく使え
- ・ムービングが伴わないパスはだめだ
- ・2秒まで待て
- ・困った時は、ツーマンゲーム（アイソレーション）で処理せよ

シュートセレクション

- ・リズムが有利なら打て
- ・相手との距離が有利なら打て
- ・決意がしっかりしているなら打て
- ・身体的に有利なら打て
- ・個人的に有利なら打て
- ・「仕方がない」というシュートもある

## 六 温存

鶴鳴モーションの構想は、前述のように具体的な考え方がまとまった。そのような構想のもとで、前借り七人組を加えて戦う新年度最初の試合は、県下春季選手権大会である。この試合の結果は次の高校総体のシードに関係するだけで大きな大会の出場権をかけた予選でもなんでもない。だから、純心用モーションオフエンスを着々と準備はしていたが、この試合では出さなかった。なぜなら、全国大会の出場権がかかっていない試合でこちらの手を全部見せてしまうのはバカげているからである。だからこの試合での寺平は従来の寺平の働きしかしていない。

平成六年四月二〇日付 県下高校春季選手権大会結果報告

【試合結果】決勝戦 純心六八(前三四・後三四)ー(前二〇・後二〇)四〇鶴鳴

#氏	名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
工藤	洋子	三年	一六七	茨城伊奈東	四〇分	十九	二	スタメン
寺平	博美	三年	一七四	長崎市長崎	三八分	六	四	スタメン
櫻田	綾香	二年	一六四	佐世保中里	三八分	七	二	スタメン
野添真優美	二年	一六六	長崎市横尾	三八分	六	〇	スタメン	
武藤	陽子	二年	一五五	茨城伊奈東	一分	〇	一	
工藤	雅子	一年	一六〇	茨城伊奈東	三九分	二	三	スタメン
浜本左也香	一年	一七五	長崎市緑丘	二分	〇	〇		
大滝まゆみ	一年	一六九	茨城伊奈東	二分	〇	〇		
瀬尾	尚美	一年	一六六	千葉 栄	二分	〇	〇	

### 【試合感想】

以前、純心に大差で負けた時「永田を守れなかったから大差で負けたではありません。攻撃力がなから得点できなかったのです」と報告したことがあります。今回も結果は同じです。しかし、それは攻撃力がないからではなく疲れのためでした。永田に絡んだプレイをくい止めるために動けば、他のチームを守るのに比べてはるかに多く動かなければならないので体力の消耗がとてもししいのです。前半の一〇分を過ぎた頃には純心と鶴鳴のユニフォームの濡れ具合がまるで違いました。

その、汗の量が増えるにしたがって鶴鳴のオフエンスの棒立ちが目立ち始めます。時間の経過とともに点が取れなくなっていくのは当然です。しかし、そんな状況の中で「よくそこまで粘った!」と言ってやりたいプレイが最後まで出ました。今回の試合では選手のふがいなさに腹が立つ場面は一度もありませんでした。選手たちは奮闘したと思います。六月と九月の二回、全国大会の出場権が絡んだ試合のどっちかひとつはいただきたいのでこれからさらにがんばります。対策は、スタミナアップ 工藤姉妹と櫻田をほんの少しの間ベンチに下げる時間を作れるためのバックアップの戦力アップ このふ

たつで間に合わなければ、土壇場ではディフェンスに奇策を用いてでもひっくり返したいと思います。

## 七 寺平てらひら

次はいよいよ正念場の高校総体である。その高校総体に向けての抱負を書いた案内文書は寺平のことだけで紙面を使ってしまった。以下原文のまま。

平成三年に初めて咲いて以来、二年間咲かなかったなんじゃもんじゃの木に花が咲きました。なんじゃもんじゃの木に花が咲くと必ずいいことが起きます。今回は残りの紙面をすべて、なんじゃもんじゃと寺平博美について語らせていただきます。

寺平は入学以来何をすることも自信がなく、いつもおどおどしながら生きてきました。そして昨年はそれに追い打ちをかけるように、八月の徳島遠征中に膝の内側側副靭帯を傷めてしまい、約三ヶ月の療養を余儀なくされました。この時点で私は、寺平を戦力として計算することを半ばあきらめました。

ところが、新入生の加入とともに落ち着きが増した寺平はその後ぐんぐん成長し、今ではエースの工藤と完全に肩を並べています。これまでの寺平しか知らない人は今大会の彼女に是非注目してください。彼女の目つきと態度にその変身ぶりが伺えるはずですよ。「指導者として大切なのは根気だよ」と、若い指導者たちに先輩面して私はいこう言います。しかし、そういう私自身は前述のように寺平を戦力外選手として半ばあきらめかけていたのです。寺平は、私もまだまだ修行が足りないということに気付かせてくれました。今年のなんじゃもんじゃの花はひよっとしたら寺平の化身かも知れません。

『続・チームを創る』を読んだ方はご存知だと思いが、そうでない読者のためになんじゃもんじゃの木について説明しておこう。正式な名前はヒトツバタゴ。キンモクセイの仲間であ馬の鱈浦地区と長野県の一部にしか自生していない天然記念物である。今も体育館の前のメタセコイアの巨木の横に遠慮がちに立っていて毎年五月上旬に小さな白い花を咲かせる。

私が講習会で対馬に行った時、高さ十五センチぐらいのなんじゃもんじゃの苗木をもらった。私はそのれを持って帰り、学校の庭に植えた。それが、植えてから七年の歳月を経て初めて花を付けた。それは一九九一年の五月だった。一九九一年といえば、夏のインターハイで鶴鳴が優勝した年だ。その三ヶ月前に、植えてから初めてなんじゃもんじゃの木が花を付けたのである。昔ほど縁起を担がなくなっていた私だったが、この時ばかりは「こいつは縁起がいいぞ」と喜んだ

## 八 金縛り

平成六年六月八日付 県下高校総体結果報告

【試合結果】リーグ決勝 純心七二(前三一・後四一)ー(前十八・後十八)三六鶴鳴

リーグ準決 鶴鳴六〇(前二一・後三九)ー(前三四・後二一)五五長商

#氏	名	学年	身長	出身中学校	決勝時間	決勝点	反則	準決勝時間	準決点	備考
工藤	洋子	三年	一六七	茨城伊奈東	三六分	十二	一	三七分	二〇	スタメン
寺平	博美	三年	一七四	長崎市長崎	二六分	二	三	二〇分	六	スタメン
櫻田	綾香	二年	一六四	佐世保中里	三六分	一〇	四	三四分	九	スタメン
野添	真優美	二年	一六六	長崎市横尾	三九分	六	一	四〇分	四	スタメン
武藤	陽子	二年	一五五	茨城伊奈東	七分	〇	一	六分	四	
工藤	雅子	一年	一六〇	茨城伊奈東	三八分	六	〇	四〇分	九	スタメン



浜本左也香	一年	一七五	長崎市緑丘	十五分	〇	一	四分	〇
肘井 茜	一年	一七五	千葉 栄	〇分	〇	〇	十六分	八
大滝まゆみ	一年	一六九	茨城伊奈東	三分	〇	〇	三分	〇

【試合感想】―準決勝長崎商業戦―

意識過剰。不動金縛りにかかったようで、棒立ちのまま力カチになって動きません。そのうちほぐれるだろうと思っただけでしたがますます泥沼に落ち込んで行くだけです。ハーフタイムの間ずっと打開策を考え続けていた私は、後半が始まる直前に、後半のスタメンには寺平を引っ込めて肘井を出すことに決めました。その理由は、「こんな時は余分なことを考えずに無心にやる一年生の方がいいかも知れない」と思っただけです。結果的にはそれで命拾いしました。人間を動かすというのは実に難しいものだとつくづく思いました。

【試合感想】―決勝純心戦―

永田に脱帽。敬意を表するしかありません。永田だけでなく、純心はチームディフェンスも強力でした。完敗です。完敗でしたが私のチャレンジ精神は少しも衰えていません。六月七日のウマ年の運勢も「失敗があってもすぐ立ち直れる。目標を大きくおいてよし」でした。九月にはもう少したくましくなった選手たちをお目にかけたいと思います。

寺平は不発だった。無口で何をすることもおどおどしていた寺平が、少なくともここ三ヶ月の練習や練習試合では別人のように生き生きと動いていたのに。

長崎商業戦での寺平の出場時間二〇分の内訳は、前半が十九分後半が一分である。長崎商業戦の寺平はまったく新人戦以前の寺平に逆戻りしてしまった。それでも私は寺平を使い続けた。生まれ変わった寺平が軌道に乗ることを期待して。しかし前半の寺平はとうとう不発のまま終わった。そこで文中にあるようにまったく使う用意をしていなかった肘井が登場するのである。これは私の直感だった。これまで仕込んできた浜本ではためなのである。勝負の怖さが少しでもわかつている選手はこの場面では使えない。かえって意識してしまうのだ。だから、ゲーム展開もシュートセレクションも何もわからず、ただ夢中でシュートに向かおうとする肘井を使ったのである。それは大成功だった。

しかし決勝戦はどうしても寺平だ。そのためにやってきたのだから。だが、決勝戦でもやはり寺平は不発だった。だから今度は浜本に一番を奪われた。なぜ決勝戦では肘井ではなく浜本なのかというと、今度は純心も鶴鳴も微妙な勝負の綾を気にしながらの試合を進めることになる。そんな試合では何もわからない肘井は使えないのである。

私は本気で狙っていた。寺平が成長したと鶴鳴モーシヨンの構想がはっきりしたこと、高校総体ではみんなをアツと言わせてやるのと本当に思っていた。だから寺平の不発には本当にがっかりした。しかし、寺平が生長したというのはウソではない。ただ、寺平が自分に気付く時期が少し遅かっただけだ。本気で自分を追い込んだ期間が少しだけ時間不足だっただけだ。この三ヶ月間の寺平は私に希望を与え続けてくれた。そして私に、鶴鳴モーシヨンの発想を生み出すチャンスを与えてくれた。その時は気付かなかったが、その発想が翌年の福島国体と翌々年の山梨インターハイで鶴鳴旋風を巻き起こす原点になったのである。私は今でも本当に寺平には感謝している。

九 八四日

九州大会は毎年高校総体の二週間後に行われる。この大会の成績は、全国で上位を狙う場合は重要になる。なぜならその結果がインターハイのシードに関係するからだ。それ以外の場合はさほど重要な試

合ではない。今年は特に県の第二代表。しかも長崎市での開催だから遠征費はかからない。だから一勝でも勝ち星を増やして長崎に帰らなければならぬというプレッシャーもない。私は九月の選抜予選の対策のことだけを頭においてこの大会に臨んだ。

平成六年六月十一日付 九州高校総体参加案内

今、私の頭の中を占領しているのは九月四日に行われるウィンターカップ長崎県予選をどう戦うかということと、そのためにこの夏をどうすごすかということ。高校総体で負けた翌日の朝、身体が鉛のように重くてベッドから起きるのが億劫でした。たった一試合のベンチでこれほど疲れたのは初めてです。それほどエネルギーを消耗したのでしょう。

まだ身体の疲れは残っています。しかし神経はピンと張りつめています。九州大会といわず、練習試合といわず、戦う相手はみな純心だと思って全身全霊をぶつけて戦い抜いていこうと思っています。九月四日まであと八四日間の道のりです。どこまで進めるか私にもわかりませんが、一センチでもいいから前に進みたいです。そのために一秒の時間も無駄にたくはありません。

【試合結果】二回戦 小林五一（前二八・後二三）ー（前二五・後十九）四四鶴鳴

#氏	名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
工藤	洋子	三年	一六七	茨城伊奈東	三六分	十七	四	スタメン
寺平	博美	三年	一七四	長崎市長崎	二一分	二	三	スタメン
櫻田	綾香	二年	一六四	佐世保中里	二八分	五	四	スタメン
野添真優美	二年	一六六	長崎市横尾	三九分	十一	一		スタメン
武藤	陽子	二年	一五五	茨城伊奈東	一〇分	〇	一	
工藤	雅子	一年	一六〇	茨城伊奈東	一三分	六	一	スタメン
浜本左也香	一年	一七五	長崎市緑丘	二分	〇	一		
肘井	茜	一年	一七五	千葉 栄	七分	三	〇	
大滝まゆみ	一年	一六九	茨城伊奈東	四分	〇	〇		
大野	慎子	一年	一六〇	佐世保中里	二〇分	〇	〇	

#### 【試合感想】

悔しい。実に悔しいです。それは、「苦しかったけどようやく捕まえたぞ」という試合を取り逃がしたからです。これまでの遠征や公式試合で「ようやく捕まえたぞ」とか「トンネルを抜けたぞ」というような試合を取り逃がしたことはありません。私は鶴鳴の選手の精神的なタフさに自信を持っています。それなのに、このチームになってから最初の地区新人戦と今回と合わせて二回も同じようなことが起きました。本当に悔しいです。

しかし、今回の結果がそうってしまったのは、選手の立場に立って弁護すれば純心に負けた次の日から選手がかなりの重圧を背負っていたからなのです。その原因は私の笑顔が消えてしまったからです。個人的には工藤雅子の仕事ぶりが最近ずっと彼女らしくないというのも試合がうまくいかなかった原因のひとつです。しかし、それも私が増幅させてしまっています。「スランプとか迷いなんてことはほんとにもっと修行を積んだ人間が使うセリフだよ。一人前に深刻そうな顔しやがって。おまえなんか無我夢中でやってりゃいいんだ」などと、このごろ毒づいてばかりいます。人のやることには浮き沈みがあるということをおわかってはいます。だからといって「いいよいいよ。そのうち戻るよ」などと悠長に構える気分は今はないんです。

この試合には、当時まだ戦力として有力視されていなかった慎子が二〇分も出場している。これは試合の様相がトランジションゲーム（攻防の展開がめまぐるしい試合）になったからである。瞬間的な

動きの素早い野添や慎子が、このような試合では出場時間が長くなり、武藤のように巧いがスピードがない選手は出番が少なくなるのである。

ところが、慎子のスピードを認めていて、慎子の動きの早さが必要になるとこのように慎子を起用するにもかわらず、それまでの練習では慎子は常に私の頭の片隅に追いやられてしまっていた。当時の私はどうしてもサイズにこだわって小さくて素早い慎子よりも大きくてセンスのいい浜本をなんとかしようとしていたのである。

実は野添の方が慎子よりも危険性をはらんでいる選手である。しかし、野添はずっと使われ続け、慎子はこのように一時しのぎに使われるものの、継続的に起用されることはなかった。野添の将来性を私が見抜いていたから野添は使われ続けたのではない。ただ、メンバー構成がそのような事情だったというだけだ。それにしても、メンバー構成が少し違うだけで、コーチがほんのちよつと何かにこだわっていたというだけで、野添と慎子にはこれだけの違いが出てしまった。幸い、慎子はその後の選手生活で花道を歩くことができたからいいようなものの、もし私のこだわりが後々まで続いていたらどうなっただろうと考えると恐ろしくなる。

## 一〇 夏休み

このあと最後の全国大会出場がかかった選抜予選までは、七月と八月の二ヶ月。永田への挑戦が始まった初年度、すなわち二年前のこの時期は、この二ヶ月の半分をグラウンドトレーニングに充ててスタミナ強化だけを図った。だがこの年はそれをやめた。春季選手権でスタミナが尽きて負けたのでこの夏のスタミナ強化は絶対不可欠だ。しかし、それよりもっと大事なことがこの年のチームにはある。それは、選手一人一人が、コート上でのプレイをもっともっと自分のものにしなければならぬということである。高校総体での寺平に代表されるように、この年の上級生たちは私の目から見ればもう充分プレイが身に着いたと思っけていても、選手の心の中には「本当に大丈夫だろうか？本当にやれるだろうか？」という不安がいつも住みついているのである。それを取り除いてやらなければならぬ。だから練習のほとんどをスクリメージに充てた。スタミナはスクリメージの中のトランジッションで補うしかない。

九州大会が終わってから八月六日まで、櫻田・工藤雅子・慎子・浜本・肘井を主力チームとして固定し、工藤洋子・寺平・武藤・野添・大滝を相手にスクリメージを何度も繰り返した。主力チームというのは最強の選手構成という意味ではなく、力を注いでやらなければならない選手構成という意味である。

この頃のスクリメージといえば一〇分間のショートゲームである。特別なことがないかぎりストップはかけない。初日、一〇分のスクリメージを二回やってみたら一回目が九対二四で主力チームの負け。二回目も九対十九で主力側の負けで勝負にならない。実はそれが私のひとつの狙いであった。

櫻田と雅子は絶対にスタメンから外せない選手である。それがこのところパツとしない。たぶんそれは、彼女たちがまだ下級生だということと本場の意味での自立ができていないからだろう。だから、上級生とはまったく切り離してこの二人がゲームを運営できるように仕組まなければならない。そう考えたのである。浜本には私のこだわりがあった。彼女の目のよさを生かして大型のガードかフォワードに育て上げようという見方で彼女をとらえていた。だからどんな時でも浜本は私が力を注いでいる方のチームに入れておかなければならなかった。

肘井はまだまだ課題山積みだったが、高校総体以後シュートに対する集中力のすばらしさが目につくようになり、寺平の代役として興味を持ち始めていたからこれも主力側に入れておかなければならな

った。大滝と慎子を比べれば大滝の方が慎子より技は多彩だし体格も大きいので、ほんの数分ではあるが大滝の方が毎回試合には出してもらっている。一方慎子はあまりの無鉄砲さで高校総体にはエントリーすらされていない。ところが、九州大会での出場時間は櫻田も雅子も二〇分台といつも出場時間より減っているのに、慎子だけは二〇分と急激に跳ね上がっている。その理由は前に述べたとおりだ。おそらく、大滝ではなく慎子を主力チーム側に回したのは、慎子の元気の素をこの夏少し調べてみようという気持ちで、私の頭の片隅にあったからではなからうかと思う。思うと言ったのは、当時私は浜本に一生懸命で、慎子のことをこの時点でどこまで真剣に思っていたかというのが記憶に残っていないからである。

この組み合わせでしばらくスクリメージを続けることで、私は櫻田と雅子が、勝負の厳しさを味わいながら苦しんでおとなになっていくてくれればいいと思っていた。ところが翌日、すなわちスクリメージの三回目、十九対十八で早くも主力側が勝ってしまったのである。その日の二回目のスクリメージ、通算四回目のスクリメージも二四対十三でまた主力側の勝ち。なんとも情けない上級生たちである。

しかし上級生も奮起した。三日目、最初のスクリメージは十三対八で上級生組が勝った。それから両者勝ったり負けたり的好勝負が約一ヶ月続いた。この間、主力チーム側には確かに自立心が芽生えてきた。だから八月六日からはメンバーを少し替えた。主力側が工藤洋子・野添・櫻田・雅子・浜本で相手側が寺平・武藤・大滝・肘井・慎子という組み合わせにしてみた。最初の一ヶ月間のスクリメージでは浜本が絶好調だったので、このスタメンで戦ったらどうなるか試してみたかったのである。しかし、この組み合わせではどちらのチームもぎくしゃくしてうまくいかない。浜本はセンターとしてもフォワードとしても中途半端で、浜本を使うとチームプレーが成り立たなかった。だから浜本を入れた主力組は一週間ぐらいで解散し、結局もとのスタメンである工藤洋子・寺平・野添・櫻田・雅子に戻して夏休み最後の一週を締めくくった。

この夏休みの間にちょっとした事件が起きた。それは八月四日だった。夏休みの強化練習期間は必ず一週間練習すると二日は休みというペースで練習をする。八月二日と三日は夏休みに入って二回目の休養日だった。練習再開の四日、慎子は熱が出て気分が悪くなった。だから練習を途中で抜けてもよいかどうか私に尋ねた。私は冷たく「やるんだよ」と言って知らん顔をして練習を続けさせた。慎子はふらふらしながら練習を続けた。エバンスビルから初めて帰省した時、その時のことを回想して慎子は言った。「あの時は景色が暗くなって、何がなんだかわからないまま無意識でプレーしてました」

その後がまだある。練習が終わったあと、私は全員を集めて「いいか、これが克服してたんだ」と言い残してさっさと体育館を後にし、猫を連れて選手よりも先に帰ってしまった。その後慎子は倒れた。他の選手たちが介抱してしばらく休ませたが慎子は元気にならない。手足はしびれて思うように歩くこともできない。そこでみんなが担架に乗せて体育館から運び出した。ちょうどその時、学校のブロック塀の塗装工事をしていた山本大工店の社長がそれを見て自分のクルマに慎子を乗せ、病院まで運んで点滴を受けさせてから寮まで運んでくれた。

その話を私は翌日聞いた。そして「あいつ、スポーツドリンクをうんと飲ませてやればそれで済んだんだよ」と、また冷たくそんなことを言っている。私はこの時のことははっきり覚えていて。七月二十五日にも慎子は同じような症状で練習を休んだ。その前日と前々日が夏休みに入って最初の休養日だった。慎子は休養日のあとは必ずと言ってよいほどそうなるのである。そんなことがしばしばあるので私は少しアタマにきていた。「これが克服してたんだ」というセリフが飛び出すまでの経緯にそんな伏線があったのである。

慎子もその時のことはよく覚えていて「こう言っつ。」私、休みになって実家に帰るとほんとに必ずと言

っていいほど具合が悪くなってたんですよ。緊張が解けてホッとすると思わずそうなってましたね」さらに慎子は続ける。「あの時はほんとに大変でした。めまいはするし、目の前が真っ暗になって何も見えないし。でも、あの事件で私は変わったと思います。なんかこう、強くなれたって言うか…。あれから病気が悪くなり具合が悪くなったりしなくなりましたから。だからあの時の出来事は、高校時代でもっとも鮮明に記憶に残っている思い出のひとつなんです」

慎子は気持ちがあやふやでいいかげんな選手ではない。これまで何回となく言っているように、「なりたい」「したい」が強すぎて危ない選手なのである。その「なりたい」「したい」が強烈だということ、は、ピンと張りつめた気持ちの生活が毎日続いているということである。当時は、休み明けのたびに具合が悪くなる慎子に対してアタマに来ていたが、緊張の連続の反動が実家に帰ってホッとした時にドツと出て発熱や腹痛の症状となったのだろつなと、今は思うことができる。

## 十一 怪物退治

平成六年九月五日付 全国高校選抜大会長崎県予選結果報告

【試合結果】 決勝戦 純心五〇（前二〇・後三〇）ー（前十四・後十七）三一 鶴鳴

#氏	名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
	工藤	洋子	三年	一六七	茨城伊奈東	三四分	三	一 スタメン
	寺平	博美	三年	一七四	長崎市長崎	二四分	二	三 スタメン
	櫻田	綾香	二年	一六四	佐世保中里	四〇分	九	二 スタメン
	野添	真優美	二年	一六六	長崎市横尾	二五分	〇	〇 スタメン
	工藤	雅子	一年	一六〇	茨城伊奈東	四〇分	十一	二 スタメン
	浜本	左也香	一年	一七五	長崎市緑丘	九分	四	〇
	肘井	茜	一年	一七五	千葉 栄	十八分	二	〇
	大滝	まゆみ	一年	一六九	茨城伊奈東	九分	〇	一
	大野	慎子	一年	一六〇	佐世保中里	一分	〇	〇

### 【試合感想】

三年間続いた『永田への挑戦』が終わりました。しかも、かすり傷ひとつ負わずことなく。永田は偉大でした。身体的な能力だけでなく、人間的にも立派な選手でした。不発のまま終わり、正直言ってます。つくりかけています。しかし、永田の偉大さは素直に認めなければなりません。今後も日本を担うエースとしてますます成長して欲しいと思います。

さて、決勝戦の報告です。私は采配をふるいながら「うちの選手にはエネルギーが足りないな」と思いました。ここで言うエネルギーとは体力のことだけではなく、意志の力や感受性も含めたものことです。圧倒的に不利だと承知の上で「もし試合運びがうまくいったら選手の思わぬエネルギーを引き出せるかもしれない」と、淡い期待をもって臨んだ試合でしたがそれも不発でした。長い間のご支援ありがとうございました。

さっそく新チームの練習を開始しますが、エネルギーの絶対量を増やすのは練習量を増やしても解決しません。またこれからあれこれ考えをめぐらす日々が続くことと思います。どうか、よい知恵があったらお貸しください。新チームのスタッフは、主将が櫻田綾香（佐世保 中里）、チーフマネージャーが橋本奈緒美（長崎市 丸尾）です。よろしく願います。

### 【選手へのメッセージ】ー決勝戦ー

前半終了のピストルと同時に左サイドから猪俣に決められたジャンプショットが勝負の分かれ目だったと思います。しかもそれが、「やられた」というプレイではなく、拮抗した状態の中でフツと心に隙ができ、うっかり相手を見失って取られた点数だったから私は一層強くそう思いました。

長い人生の中では悔いが残るべきことのひとつやふたつ誰でも持っているものです。これもその内のひとつ。私を含めて、残された下級生はこれを反省材料にしてまた練習に励んでいけばよいわけですが、三年生にとっては挽回したくてももう二度とこの日は戻ってきません。「いい教訓になりました」という程度では三年生に申し訳がないということをお腹に銘じて、これからの練習に取り組んでいきましょう。

結果を見ておわかりのとおりロススコアゲームである。これは私が意識的にディレードゲーム（ゆっくりしたペースの試合）に持ち込んだのではなく、双方激しい守り合いの試合展開になったので、自然にそうなってしまったのである。守り合いの試合は体力を消耗する。一回の動きが身体に与えるダメージは鶴鳴の方が大きいということは誰の目にも明らかだった。

しかし、そんな状態でも「まだ射程距離内だ」と感じる事ができるなら身体的には参っていてもまだエネルギーは絞り出せるものだ。だから、前半終了間際に四点差から六点差にされた猪俣のジャンプショットは、「射程距離内で前半を終われる」という望み断ち切られたという意味で大きかったのである。このショットと同時に前半終了のピストルが鳴ったが、私はこの時点で「後半は一方的になるかな」と思った。

後年こうして振り返ってみると、こんな様相になった試合ほど慎子のように不屈のチャレンジ精神を持った選手が頼りになるとわかるのだが、県内における試合では、私は純心戦だけはきちんと計算できる選手を優先的に使ってしまう。相手が何をしてくるか、どのような試合の様相になるか、という見当がつくので「この選手はこんな時必ずこうする」と私が読める選手を使ってしまうのである。大事な試合になればなるほど思い切った勝負手よりも日頃積み上げてきたしっかりした手で勝負しようとする。改良しなければならぬ私の性癖なのかもしれない。

## 十二 総集編

永田への挑戦の総集編をまとめて本章の締めくくりとしよう。

永田が入学した年の高校総体は準決勝の長崎商業戦で山口が重傷の捻挫を負い、主砲の一瀬（早稲田大学 JAL）が孤軍奮闘したが玉砕した。この試合は前半終了時点では勝っていた。しかし私は鶴鳴優勢とは考えていなかった。前半の途中から一瀬は肩で息をしながらプレイをしていたので後半はオーバースピードで走れなくなると予想していたのである。そして試合はそのとおりになった。

残された全国大会の出場権がかかった試合は秋の選抜予選である。夏休みはグラウンドトレーニングを四〇日間やり通し、グリコーゲンローディングやカーボローディングまで試みて体力をつけ、必勝を期して臨んだが一ゴール差で負けて雪辱はならなかった。（この経過については『続・チームを創る』で述べている）

翌年、全国レベルの選手は鴨川（福岡教育大学へ進学）ひとり。同僚に神崎（福岡大学へ進学）がいて、ひとつ下に工藤姉（東京学芸大学へ進学）がいたのでチーム力は前年と比べて大差ない。この年の記録は『続・チームを創る』と本編の間にあつてどちらでも述べていないのでかいつまんでここで述べておこう。一瀬がドライブで持ち込んだラストショットがリングをグルツと舐めて落ち、一ゴール差で選抜予選に負けてから約一ヶ月半後、鴨川の代になってから初の試合が長崎地区新人戦であった。

平成四年一〇月二六日付 長崎地区新人戦結果報告

【試合結果】 決勝戦 鶴鳴五五（前三一・後二四）ー（前一九・後一九）四八純心

#氏	名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
	鴨川	友紀	二年	一五九	佐世保中里	四〇分	十七	一 スタメン
	神崎	景子	二年	一六七	諫早市有喜	四〇分	四	一 スタメン
	安部	智子	二年	一六二	長崎市横尾	三四分	二	二 スタメン
	吉村美野里	二年	一五八	熊本県苓北	六分	九	一	
	工藤	洋子	一年	一六七	茨城伊奈東	四〇分	十九	三 スタメン
	寺平	博美	一年	一七四	長崎市長崎	四〇分	四	四 スタメン

#### 【試合感想】

永田はシュートを打った後のオフンスリバウンドに積極的ではありませんでした。このことは今後監督に指摘され、改善されてくるはずですから、それを考慮に入れて永田の得点力を計算しておかなければなりません。やはり永田は一試合で四〇点取る選手です。新人戦ですから永田に対して特殊な守りはしませんでしたし来月の県新人戦もそれは同じです。

気になるのは鶴鳴の攻撃力です。私が不満だったのは、誰もがシュートに対して積極的にならなかったことです。何に対して慎重になっているのか、走りもしないしシュートも打たない。まだ他にも未熟なところはたくさんありますが、それでも現在の段階で純心相手に七〇点は取れると私は思っています。それが五五点で止まってしまったのは一人一人がゴールを狙わなかったからです。その原因が練習内容に問題があるのか選手の意志に問題があるのか、これから調査します。個人的にはつきり言えるのは、寺平は場数を踏めば大丈夫だという感触を得たことです。

この試合は純心が国体から帰ってきたばかりで、新チームとしての練習はまったく出来ていなかったから勝てたのであって、本当の力の差は昨年とまったく変わらない。したがってこの試合の結果はほとんど参考にはならない。

平成四年十一月十七日付 県下新人戦結果報告

【試合結果】 決勝戦 純心六七（前三八・後二九）ー（前二九・後十六）四六鶴鳴

#氏	名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
	鴨川	友紀	二年	一五九	佐世保中里	四〇分	十八	一 スタメン
	神崎	景子	二年	一六七	諫早市有喜	〇	〇	〇 欠 場
	安部	智子	二年	一六二	長崎市横尾	四〇分	六	〇 スタメン
	吉村美野里	二年	一五八	熊本県苓北	四〇分	十一	四 スタメン	
	工藤	洋子	一年	一六七	茨城伊奈東	四〇分	八	三 スタメン
	寺平	博美	一年	一七四	長崎市長崎	四〇分	二	四 スタメン

#### 【試合感想】

長崎地区新人戦の結果報告では次の三点について報告しました。

永田は県新人戦では積極的にプレイするようになってくるだろうからその失点を計算に入れておかなければならない。

鶴鳴の攻撃には不満があった。

寺平は場数を踏めば使えるようになる。

県新人戦の案内文書では次の二点についてお知らせしました。

神崎が見違えるように成長した。

工藤が急にスタミナアップした。

以上の報告がこの新人戦でどのような結果として現れたかということについて報告いたします。

永田はやはり予想通り本来の力を発揮してきました。

鶴鳴の攻撃は前回と同じ結果でした。(棒立ち・躊躇・無理)

寺平が活躍できるようにするにはまだ場数が足りません。

神崎は試合一週間前の練習でふとももを打撲(筋断裂)で出場せず。

工藤のスタミナアップはこの試合では好結果出ず(当然ですが)

鶴鳴のディフェンス面のまずさで致命的だったのは、純心にオフェンスリバウンドをたくさん取られたことでした。永田に取られるのはともかく永田以外の選手にも取られたのが痛かったのですが、これは、永田を二人または三人がかりで守ろうとした結果、その周辺のボールを拾われてしまったのですから大目に見てやらなければなりません。

それよりも、試合の大勢を決めたのは鶴鳴のオフェンスのまずさです。鴨川以外が棒立ちで動かない場面が多く、またシユートに向かうプレイがごとく中途半端でした。打てばいいところでパスするし、遅れて打ってブロックされるといふ場面の連続でした。今後の鶴鳴を分析してみます。

鴨川には何も手を付ける必要はありません。神崎も順調に力をつけていってくれるでしょう。なにしろ神崎はトンネルが長かったですから、そこから抜け出した以上もう二度と以前の神崎に舞い戻ることはないと思います。問題は工藤です。まだまだプレイに幼さがたくさん残っています。これがどこまで伸びるか(私がどこまで伸ばしてやれるか)が重要なカギを握っています。工藤が伸びるのがなぜそれほどまでに重要かという点、鶴鳴の現状では鴨川と工藤をオフェンスの組み立ての二本柱として起用しなければならぬからです。工藤がしっかりとってきてくと鴨川にかかるストレスが減るしこの二人がしっかりとってきてくと神崎・安部・吉村・寺平は安心してプレイができます。

平成五年一月十八日付 九州高校春季選手権大会長崎県二次予選結果報告

【試合結果】 準決勝 長崎商業五一(前二二・後二九)ー(前二八・後二一) 四九鶴鳴

#氏	名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
	鴨川	友紀	二年	一五九	佐世保中里	四〇分	十二	二 スタメン
	神崎	景子	二年	一六七	諫早市有喜	三五分	十九	五 スタメン
	安部	智子	二年	一六二	長崎市横尾	四〇分	三	一 スタメン
	吉村美野里	二年	一五八	熊本県苓北	〇分	〇	〇 欠場	
	野口	千枝	二年	一七〇	長崎市戸町	三〇分	四	四 スタメン
	工藤	洋子	一年	一六七	茨城伊奈東	四〇分	十一	一 スタメン
	寺平	博美	一年	一七四	長崎市長崎	十五分	〇	三

#### 【試合感想】

吉村が試合の前日の練習で膝を捻挫して前十字靭帯を切ってしまいました。スリーメンブレイクの練習中、パスをもらってシユートしようとした瞬間でした。その日の練習はそのまま続けました。が、吉村の事故で他の選手の集中力が切れ、それがそのままこの試合にも尾を引きました。吉村には気の毒な言い方になりますがスタメンは吉村でなく安部を起用してもチーム力は大きな差はないのです。だから吉村が出場できなくても戦力には影響ありません。選手にもそれはわかっていたはずなんです。勝負の世界というのはデリケートなものでほんの少しでも集中力を途切れさせるような出来事があると本来の姿に戻すのはなかなか難しいものです。ご覧のとおり、冬休みの強化合宿の時とはまったく別のチームのような試合をしてしまいました。

報告文書には書いていないが、私自身もこの日はインフルエンザにやられて試合開始直前までパスの



中で暖房を目一杯利かせて休んでいた。試合のベンチは寒気と関節痛と戦いながらの采配であった。うまくいかない時というのはこのようなもので、これがきっかけで鶴鳴はすると後退し、歴代屈指の好ガード鴨川を擁しながら高校総体は鶴鳴バスケットの歴史上ワースト2の記録を残すことになる。

平成五年四月二〇日付 県下高校春季選手権大会結果報告

【試合結果】準決勝 純心五五(前二四・後三一)ー(前二二・後三〇)五二鶴鳴

#氏	名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
鴨川	友紀	三年	一五九	佐世保中里	四〇分	二三	二	スタメン
神崎	景子	三年	一六七	諫早市有喜	二〇分	二	五	スタメン
安部	智子	三年	一六二	長崎市横尾	九分	三	一	
野口	千枝	三年	一七〇	長崎市戸町	二〇分	〇	〇	
工藤	洋子	二年	一六七	茨城伊奈東	三三分	十三	四	スタメン
寺平	博美	二年	一七四	長崎市長崎	三五分	四	四	スタメン
武藤	陽子	一年	一五六	茨城伊奈東	三六分	七	〇	スタメン
野添真優美		一年	一六六	長崎市横尾	二分	〇	〇	

【試合感想】

前半の得点は、鶴鳴が二二で純心が二四。純心の二四は全部永田です。他の選手はゼロです。結局永田にはトータルで四四点取られました。負けた原因ですか？百パーセントオフエンスが悪かったからです。棒立ちになる。動きの悪い状態から無理な一対一を仕掛ける。そんな場面が前後半を通じてずっとありました。永田を如何に守るかということに神経を使い過ぎるからかも知れません。どんなに頑張っても永田には点を取られるのだからもつと気楽に考えた方がいいのかも知れません。

あと一ヶ月半。走るメニューをたくさんこなして高校総体はラン・アンド・ガン(速攻からの早いシユートで勝負するやり方)でやってみようかとも思っています。ポイントを絞ったり、永田を前後から挟んだり、そんな作戦は長い準備をしなければならぬやり方ではありませんから当日いきなり指示しても大丈夫だと思います。だからそのような準備はしません。ラン・アンド・ガンをやるためには交替要員が豊富でなければなりません。鴨川・神崎・野口・工藤・武藤のスタメンに、櫻田・安部・野添・寺平・本田・野原までは使えるようになると思います。

平成五年六月九日付 県下高校総合体育大会結果報告

【試合結果】リーグ準決 長崎商業六一(前二九・後三一)ー(前二七・後二二)四九鶴鳴

リーグ決勝 純心七七(前三三・後四四)ー(前二六・後三一)五七鶴鳴

#氏	名	学年	身長	出身中学校	決勝時間	決勝点	反則	準決時間	準決点	備考
鴨川	友紀	三年	一五九	佐世保中里	三四分	二〇	三	四〇分	十八	スタメン
神崎	景子	三年	一六七	諫早市有喜	十一分	二	一	〇分	〇	
安部	智子	三年	一六二	長崎市横尾	八分	三	一	九分	〇	
野口	千枝	三年	一七〇	長崎市戸町	〇分	〇	〇	十八分	六	
工藤	洋子	二年	一六七	茨城伊奈東	三九分	七	四	三四分	九	スタメン
寺平	博美	二年	一七四	長崎市長崎	二五分	四	三	二二分	六	スタメン
武藤	陽子	一年	一五六	茨城伊奈東	三三分	三	〇	三三分	二	スタメン
櫻田	綾香	一年	一六四	佐世保中里	四分	二	〇	〇分	〇	
本田伊久代		一年	一七〇	佐世保日宇	五分	〇	〇	〇分	〇	
野添真優美		一年	一六六	長崎市横尾	三六分	十六	一	三九分	八	スタメン

【試合感想】―準決勝長崎商業戦―

敗戦のもっとも大きな原因は「守りきった!」というディフェンスの結果をものにならなかった場面が多すぎたことです。データでもはっきり出ているように長商にオフェンスリバウンドを四七パーセントも獲得されているのがそれを証明しています。データの数字では相手のオフェンスリバウンドにカウントされてはいるものの、相手のシュートミスのなんでもないこぼれ玉をぼんやりして拾えずに相手に献上したボールがたくさんあります。

【試合感想】―決勝純心戦―

永田はやはり精一杯守っても三〇点は取られる選手です。それはそれで仕方ありません。純心は永田以外の選手がしっかりしたプレイができるようになっていました。一方鶴鳴は、オフェンスにおいて鴨川の負担がまだまだ重いのがつらいところです。それが後半に現れます。鴨川が疲れてくると他の選手たちまで棒立ちになります。

そついうわけで、純心戦は何が悪かったというよりチーム力の差がそのまま結果として出たと思います。総合力の差を縮めるには体力・技術・プレイの理解度・勇気・決断、これらすべての項目において少しづつ個々のレベルを上げなければなりません。そのためには一刻の猶予もありません。早速六月九日から練習を開始しました。

この日から数えて八七日後に全国選抜大会の県予選が行われます。その間に休養日や行事のために練習ができない日がありますので、それを差し引くと正味七〇日の練習です。そのうち午前と午後の二部練習ができる回数が二八回。二部練習ができる日は午前中にグラウンドトレーニング（五千メートル一本、四百メートルダッシュ五本、百メートルダッシュ一〇本）をやり、午後からコートでの練習となります。私は、選手が訓練によって技術や体力を身につけるために、三〇回の訓練が必要だと思っています。この考えに立てば、体力の訓練は二八回だからほぼ一周り、技術の訓練は七〇回だから二周り強の訓練ができることになります。このような訓練をもとに、鴨川以外の選手が一人四点ずつ得点力が増すことを狙いとして今年度のラストチャンスに賭けたいと思います。

四月の春季選手権と六月の高校総体、ともに出場時間が極端に短いかまたは出場していない主力選手が二人いる。一人は三年生の神崎景子。彼女は鍛えても鍛えてもピリツとしないというか鈍感というか、とにかく見ていて腹が立つ選手だった。だから使ってやりたいという気持ちにならない。しかし、これは私のとんでもない見込み違いであった。

どうも様子がおかしいので夏休みに入ってから血液検査を受けさせたところ極度の鉄欠乏性貧血だった。ヘモグロビンはハグラム代。これでは力が出ないはずである。まじめで従順で、訴えを表面に出さない選手だったので私の発見が遅れた。かけたしのコーチならまだしも、コーチキャリア二五年も過ぎたコーチとしては大失態だった。

試合結果報告にある夏休みのグラウンドトレーニングを神崎はすべて免除した。夏休みいっぱい治療に専念させた神崎は九月になってすぐのウィンターカップ長崎県予選では三九分の出場。さらに二ヶ月後に行われた県下高校駅伝大会では二区を走って区間三位の大活躍だった。その後彼女は福岡大学に進学し、主力選手として活躍。さらに長崎県の中学校教員採用試験に一発で合格し、現在大村市内の中学校で立派な指導者として勤めている。長い指導者生活の中では悔いの残る試合や出来事がたくさんある。彼女の件もその中のひとつとして心の奥底に今でも残っている。

もつひとは櫻田綾香。この時はまだ一年生だが、彼女は二年後の福島国体準優勝の立て役者になる。当然一年生の中ではセンスが光る。しかし彼女は入学当初から足の疲労骨折に悩まされた。その経緯については第三章の冒頭で紹介するのでここでは述べない。が、いずれにしろただでさえ選手層が薄い

に主力となりうる選手が二人も脱落したのは非常に痛かった。

平成五年九月七日付 ウィンターカップ長崎県予選結果報告

【試合結果】決勝戦 純心 七五(前三四・後四一)ー(前二二・後三六)五八鶴鳴

#氏	名	学年	身長	出身中学校	出場時間	得点	反則	備考
	鴨川	友紀	三年	一五九	佐世保中里	三八分	十九	三 スタメン
	神崎	景子	三年	一六七	諫早市有喜	三九分	一〇	五 スタメン
	野口	千枝	三年	一七〇	長崎市戸町	五分	〇	〇
	工藤	洋子	二年	一六七	茨城伊奈東	四〇分	十五	四 スタメン
	櫻田	綾香	一年	一六四	佐世保中里	四〇分	十一	〇 スタメン
	野添	真優美	一年	一六六	長崎市横尾	三三分	三	〇 スタメン
	野原	亜紀子	一年	一七五	五島 福江	三分	〇	〇
	武藤	陽子	一年	一五六	茨城伊奈東	二分	〇	一

【試合感想】ー決勝純心戦ー

怪物退治は成りませんでした。

デیفエンスはオールコートマンツーマン・ハーフコートゾーン・トライアングルツート、あらゆる手段を講じましたが不発でした。オフェンスは鴨川の一対一に勝負を賭けたのですが他の四人がうまく合わせてやれませんでした。これで二年連続怪物に踏みつぶされました。残るチャンスは来年六月の高校総体と九月のウィンターカップ予選の二回だけとなりました。

応援に駆けつけてくれた人と直接ことばは交わりませんが、毎回「さて鶴鳴はどんな試合ぶりを見せてくれるだろうか」「鶴鳴のことだからただでは転ばないだろう」と、鶴鳴バスケットに心から愛情と期待をもって見守ってくれている多くの方々の気持ちを感じます。私たちはもう二年も負け続けています。でも、鶴鳴バスケットの支援者は減りません。実に有り難いことだと思います。月並みですが、あと二回しかない試合に全身全霊を打ち込みます。そして、必ずみなさんを感動させる試合をします。ありがとうございます。

『続・チームを創る』は平成四年までの出来事で、本編は平成六年から始まっているので、平成五年度は宙ぶらりんになる。だから平成六年度の出来事の後に平成五年度の出来事を挿入したので紹介が逆になってしまった。

ともあれ、そのような経緯を経て三年間挑み続けた永田への挑戦は、こうしてかすり傷ひとつ負わずことなく終わった。しかし、浜松インターハイ以後、一瀬 鴨川 工藤姉 櫻田 前借り七人組へと引き継がれてきた一連の出来事は、それが例え屈辱を味わった出来事であったとしても、二年後にあの富士の裾野で展開された鶴鳴バスケットが出来上がる過程にどれひとつ欠かすことのできないパーツになっていると私は確信する。